

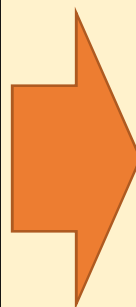
令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 菊かおる園地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和3年度 実績報告】

1. コロナ禍の活動制限による、フレイルやつながりの希薄化に対し、地域づくり部会を年2回開催し各レベルでの取り組みを推進した。
 - ・地域の課題（入浴やゴミ出し）を検討し区レベルの会議に意見した。
 - ・民生児童委員有志によるおたよりを年2回作成し配布した。
 - ・ボランティアの活動継続のため「菊元気あとおしボランティア」の仕組みを構築した。
 - ・介護予防リーダー運営の「いきいきクラブ IN 豊島」が主催した「認知症とのかかわり方」講座に相談機関としての講義・懇談会を実施した。
2. 家族介護者への支援として「介護者カフェ」を年9回実施した。11月には認知症支援講座を実施した。



【令和4年度 事業計画】

- ・WITHコロナへのシフトに向け、高齢者が安心安全に活動できるように活動に関する情報提供、応援、ワクチン接種勧奨などを行う。
- ・ホッと菊食堂（おとな食堂）の継続実施により、孤食、閉じこもり、低栄養などの予防・改善に取り組む。
- ・介護者カフェを自主運営化、本年度はサポートしていく。
- ・認知症になっても社会参加ができるように、チームオレンジ等を活用して生きがい活動につなげていく。
- ・認知症になっても安心して暮らせるように、所内にて三職種・アウトリーチミーティングを月2回程度実施し、課題解決、適時適切な対応を実施していく。

【令和3年度 実績の中で特に力を入れた活動】

コロナ禍であってもできることを実施した。

- ・有志の民生児童委員と協議し、こもりがちになっている高齢者に転倒予防等の情報を記載したお便りを配布した。
- ・介護者カフェにおいて、緊急事態制限下での交流ができないときには、お便りを作成し参加者の近況を伝えた。

令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 菊かおる園地域包括支援センター 】

課題に対する目標

【令和3年度 実績報告】

- ・菊かおる園圏域に総合事業の通所 B・C や A8 事業所がなかったため、圏域にて活動中の6つのサロンを通所 B への移行を促した。
- 一方で A8 予定事業所との協議を行っていたが実現できなかった。



【令和4年度 事業計画】

- ・A8 事業は、類似の通所 C にてリハビリ特化のサービスがあるため、積極的に活用する。
- ・通所 C の卒業時には通所 B を提案し、つながりや身体機能などができるだけ維持されるようにする。
- ・総合事業の利用促進のため、事業の正しい理解と適切なケアマネジメントの普及啓発を継続して実施していく。

【目標を下回った背景/原因等】

- ・参入可能性のあった A6 事業所が、会社の都合により A8 サービスを開始できなかった。

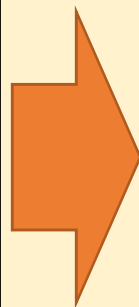
令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 東部地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和3年度 実績報告】

- ・ケアマネ地区懇談会とケアマネカフェを5回実施。令和2年度は新型コロナの影響で1回しか実施できず。ケアマネジャーより情報交換をする場がなくなった、ZOOMでは対面のように話が出来ないとの意見を受けて今年度、集合型で実施した。
- ・東部医療介護学習交流会では、区民ひろば2か所を利用して区民向けの福祉イベントを実施。コロナ禍で人との交流が閉ざされてしまったが、地域で仕事をする東部圏域の医療介護従事者等が、地域の高齢者や家族に対して、どのような地域貢献が出来るかという視点に立ち、対面型の福祉イベントを行った。在宅医療や介護の制度等を伝える為、演劇を行った。



【令和4年度 事業計画】

- ・総合相談の強化と個別ケア会議の実施。介護保険利用、退院支援、認知症、フレイル、権利擁護、困難ケース等様々な個別相談が入ってくる。相談内容が複雑化しているので積極的に個別ケア会議を実施し、他機関との連携していき支援力を高めていく。
- ・コロナ禍以降、フレイルや認知症の相談が増加傾向。日常生活支援総合事業や初期支援チーム、物忘れ相談、介護者の会の案内等豊島区の総合事業や介護予防認知症施策を利用し支援を行っていく。介護保険制度や区の施策以外に第2層生活支援コーディネーターと連携し、地域で支え合う社会資源を発掘していく。

【令和3年度 実績の中で特に力を入れた活動】

- ・ケアマネカフェでリーガルサポート東京豊島支部と合同で「成年後見制度と地域福祉権利擁護事業について」を開催。司法書士とケアマネジャーとで成年後見制度についてのグループワークを実施し、専門職同士の相互理解を深めた。
- ・東部医療介護学習交流会：演劇「ケアマネジャー等医療・介護職員が在宅医療・介護の上手な利用方法を紹介。いざと言う時に慌てない為、もしもの時に備えて」と講座「知ってほしい在宅医療のできる事とお金の話」を開催。東部圏域の医療・介護等従事者が2か所の区民ひろば毎に役割・担当を決めて、演劇・講座・介護予防体操・福祉用具展示を行う。コロナ禍で感染予防を徹底しながら、区民向け福祉イベントを実施した。



令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 東部地域包括支援センター 】

課題に対する目標

【令和3年度 実績報告】

- ・南大塚・巣鴨地区懇談会と駒込地区懇談会がオミクロン株の流行により実施が出来ず。民生委員や町会長等との意見交換をする場が持てなかった。アンケートで地域課題について情報収集を行った。
- ・基本チェックリストの窓口実施が1件、A8の利用が1件、短期集中通所型サービスが3件、短期集中訪問サービスが7件と総合事業の活用と普及が十分ではなかった。



【令和4年度 事業計画】

- ・支え合いの仕組みと地域のネットワーク作りとして地区懇談会の開催。地域ケア全体会議前に南大塚・巣鴨地区懇談会と駒込地区懇談会を実施予定。昨年度の地域課題となった「入浴の場の確保」と「ゴミ出しの支援」について、民生委員や町会長等からの意見を伺う。
- ・介護予防・日常生活支援総合事業の活用と普及啓発の強化。今年度東部圏域に新しく短期集中通所型サービスの会場が設置される為、今まで会場が通いづらいとの理由での利用に繋がらなかった高齢者へ利用を促していく。出張相談や出前講座等区民ひろばへ行った際に周知をしていく。

【目標を下回った背景/原因等】

- ・地区懇談会開催前に対面での開催について民生委員や町会長等へアンケートを実施した。ワクチン接種が済んだとしても感染リスクがある為、地区懇談会は欠席との意見が多かった。また ZOOM 等の ICT を活用できる環境もなかった。
- ・圏域内に A8 事業所が無い事や駒込・巣鴨から短期集中通所型サービスを提供する大塚駅までが遠くて限られた地域の高齢者しか利用に至らなかった。環境的な要因以外にも職員も介護保険申請者に対して基本チェックリストを活用する意識が十分ではなかった。結果的にリハビリ・運動目的の相談者に対してはA6の提供を勧めて傾向が強かった。

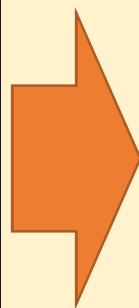
令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 中央地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和3年度 実績報告】

- 1.集合住宅で暮らす高齢者の見守り体制を強化
 - (1) 新規周知活動先の開拓（6カ所）
 - (2) 管理人・理事会等の把握とリスト化（30件）
 - (3) 介護と不動産関係者の勉強会（1回）、
UR住宅の高齢者相談会（2回）
 - (4) 「集合住宅ネットワーク連絡会」の開催（書面：1回）
- 2.介護予防の担い手と地域活動への支援
 - (1) サロン運営スタッフの確保（新規3名）
 - (2) 介護予防サロン⇒通所Bへの移行支援（1団体）
 - (3) 2層SC、URスタッフと連携したサロン運営者の
支援体制構築
- 3.適切なサービスの利用と卒業を目指した支援
 - (1) 基本チェックリストの実施 50件
 - (2) 元気はつらつ訪問事業（36件）
 - (3) 短期集中型サービスC（訪問型36件、通所型13件）



【令和4年度 事業計画】

- 1.独居高齢者の支援体制強化
 - (1) 「集合住宅ネットワーク連絡会」の拡充
（年2回：開催方法は、書面と対面のハイブリッド開催）
 - (2) これまで関係性の薄かった町会や高層マンションがある
町会を訪問し、周知・PR活動を実施
 - (3) 就活あんしんセンターとの協働による、同行訪問や就活
登録事業の積極的活用（同行訪問：5件）
 - (4) 安否確認マニュアルの理解を深めるためのOJT（年2回）
- 2.コロナ禍の影響で停滞したサロン活動の再興
 - (1) 休止していたサロン活動の運営再開支援
 - (2) 集合住宅におけるサロン活動の新規立ち上げ
 - (3) Ayamuを活用した、サロン活動等の紹介

【令和3年度 実績の中で特に力を入れた活動】

集合住宅への広報活動や高齢者相談会の共同開催を通して、URスタッフとの連携を強化しサロン活動の場所を提供していただくことができた。結果、介護予防サロンは通所Bへとスムーズに移行することができた。介護予防サポーターは、サロンを主体的に運営し、URが場所の提供をし、2層SCは運営のサポート、包括は対象者のスクリーニングや参加者の勧誘を行うといったそれぞれの役割を自覚した連携体制モデルの構築を行った。

令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 中央地域包括支援センター 】

課題に対する目標

【令和3年度 実績報告】

- 1.研修、専門部会、PT、会議等の所内における情報共有が十分に行えなかった。
- 2.コロナ禍のストレスが、認知症高齢者のご近所トラブルに影響を与えている。
- 3.金融機関との連携は、これまでも単発的に行ってきたが、より明確にしっかりとした体制を作っていく必要がある。



【令和4年度 事業計画】

- 1.伝達研修、部会・PT・会議報告の時間を確保し、職員間の情報共有を徹底する。また、他者へ伝達することで知識の定着を図る。
- 2.認知症に関する正しい理解を普及するために、地域住民に対する情報提供の機会を増やす。また、関係機関へ、認知症施策の情報提供を丁寧に行う。
- 3.金融機関を対象とした講座や座談会などを開催し、認知症高齢者の対応や消費者被害の予防について意見交換をしつつ連携を強化していく。

【目標を下回った背景/原因等】

- 1.これまで、職員会議で諸々の情報を報告しあってきたが、会議体の増加に伴い、共有すべき情報が増えたため、時間的に漏れることが増えてきていた。
- 2.コロナ禍における行動制限や活動自粛が、認知症高齢者だけでなく健常な地域住民にも等しくストレスを与えており、これまで暖かく見守ることができていた地域でも、トラブルに発展するようになってきた。
- 3.令和3年度の事業計画では、「金融機関との連携」について触れておらず、個別のケースにおける単発な連携はあったものの、具体的・組織的な取り組みは行ってこなかった。

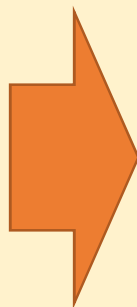
令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 ふくろうの杜地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和3年度 実績報告】

- ・総合事業、高齢者の社会参加、地域共生に向けて地域が大きく動き出した年。
 - 第2層 SC の配置、沢山の「場」の存在、続けてきた広報検討会、民児協とのネットワークや情報共有を活用して積極的に住民への情報提供や誘い出しを行った
 - 総合事業の横の繋がりや“ちょっと前の自分に戻る”ためどのように活用したらよいかを理解するためにフレイルの勉強会実施、モデル事業の事前研修にも参加し理解を深めた。
 - 地域のケアマネジャーと「総合事業」テーマに研修会実施。ケアマネジャーからも地域活動をもっと知りたいという要望あり。
 - 多職種連携会でも「総合事業」テーマに第1部は研修実施



【令和4年度 事業計画】

- ・広報検討会で検討・情報収集行い、第2層 SC が作成したお散歩マップ（資料参照）を住民・圏域内の様々な機関に配布し、ネットワークのさらなる拡充と介護予防・フレイル予防のツールとしての活用をはかる。
- ・総合事業や社会資源を活用しながら少しでも自立した生活を続けていただくためのプランや目標を利用者とたてるために包括内でプラン点検を行う
- ・多職種連携会第2部は集合研修形態で「総合事業」テーマに事例検討実施予定

【令和3年度 実績の中で特に力を入れた活動】

広報検討会では地域の情報をいち早く関係者で共有でき、地域課題を検討する場でもあり、お互いの機関の仕事を把握していることで障害を持つ家族を含めた支援にもつながっている。広報検討会の内容は包括内で共有をはかり全職員が地域情報や通所B情報を持つことで、各機関や通所Bのコーディネーターともやりとりしながら、それぞれの住民に合った場を情報提供し必要時同行している。

令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 ふくろうの杜地域包括支援センター 】

課題に対する目標

【令和3年度 実績報告】

- ・「総合事業を軸に社会資源やニーズの抽出について考える」という内容で地区懇談会を2回予定していたがコロナの第6波の影響で中止となった。
- ・町会や高齢者クラブへのアプローチが課題だったが、救急医療情報キットが7月から配布開始されたところ町会・高齢者クラブでの説明や配布の要望があり実施できた。(もともと高田地区民児協より数年前から要望あったもので、住民のニーズにマッチしたものであったと感じている)
しかしさらなる関係強化が望まれる。



【令和4年度 事業計画】

- ・中止となった地区懇談会出席予定者に総合事業の資料とアンケートを配布し同様のテーマで実施予定。コロナの収束を待っても難しさを令和3年で実感したため、集合というよりキャラバン形式で実施できないか関係者と相談予定。
- ・「お散歩マップ」配布や救急医療情報キット等のツールを活用し関係強化を引き続き図っていく。

【目標を下回った背景/原因等】

時期的に11月に地区懇談会を実施できると良かったが3年に1度の実態把握事業が始まり、時期を1月2月にずらしたところ第6波に巻き込まれてしまった。地区懇談会の形態を検討する必要性を感じた。
町会や高齢者クラブへの救急医療情報キットの説明はまだ数か所にとどまっているためさらなる広報と関係構築が求められるが、住民のニーズにマッチしたものを提供していく重要性は実感した。

南池袋・雑司ヶ谷周辺お散歩MAP

ステイホーム期間でも楽しめる公園や草花、見どころなどを紹介。歩いてくると心身ともに健康を保ちましょう！

トイレ... トイレ
ベンチ... ベンチ

大地の像

この像の設置は、馬前の都電廃止から2年後、昭和46年のこと。「反り像」「ブリッジ」など様々な愛称で待合場所にもなっていたが、タクシンプールの新設のため、ロータリーを中心に移設。世界的彫刻家の作品なのに近づくことすら難しい。

ダイヤゲート池袋

2019年にできたオフィスビル。2F展望デッキは開放的な空間で、芝生エリアやベンチもありゆったり過ごせる。電車好きな子どもたちにも大人気で、晴れた日には秋父の山並みや富士山も見える。

威光稲荷堂

赤い鳥居が続く先にある。すぐ横の寺務所で油揚げと「家内安全」と書かれたロウソクを買って(200円)お参りできる。稲荷堂の奥へ赤い鳥居が続く大きな木を囲むように小さなお社とたくさんの狐さんがお守りしている。何とも言えぬ神秘的な空間

南池袋1丁目公園

このトイレには猫とかるたの絵が描かれている。北側の道路沿いには花だんがあり、季節の花が楽しめる。

南池袋公園

2016年にリニューアル。かつてのホームレスが集う寂れた空気はどこにもない。実はこの大改造、進んだのは地下にできた東京電力変電所の借地料のおかげ。現在も年間1,500万円の収入があり公園の維持管理に充てられる。懐が〇〇の豊島区らしいエピソード。利用時間: 8:00 ~ 22:00

公園案内図

トイレは2ヶ所
カフェ
いろいろな植栽 季節の花が楽しめる
5~6月にはハマナスが咲く
倉庫
あじさいの仲間 ワイルドストロベリーなど
卓球台がある ラケットはカフェで借りられる
絵本が置いてあり自由に読める
カシワバ アジサイ 円錐形の花房 白い花を付ける
さくら テラス
芝生広場
地下駐輪場 すべり台
しゅんとこのみ〜さきに〜

豊島の森

区役所10Fにある屋上庭園。ベンチもあり素敵な休憩スポットだが飲食は禁止。小川や池も作られ4Fまで階段を下りながら散歩できる。土・日以外の祝日は休み。4Fには障がい者が働く「カフェふれあい」があり、日替わりランチデザート類が人気。

雑司ヶ谷霊園

夏目漱石や小泉八雲、サウハチローと言った著名人が多く眠る。霊園の南側は樹木が多く、在来の可憐な野花などが足元に咲く。秋にはキノコが出たり、季節を通して散歩が楽しめる。

雑司ヶ谷七福神めぐり

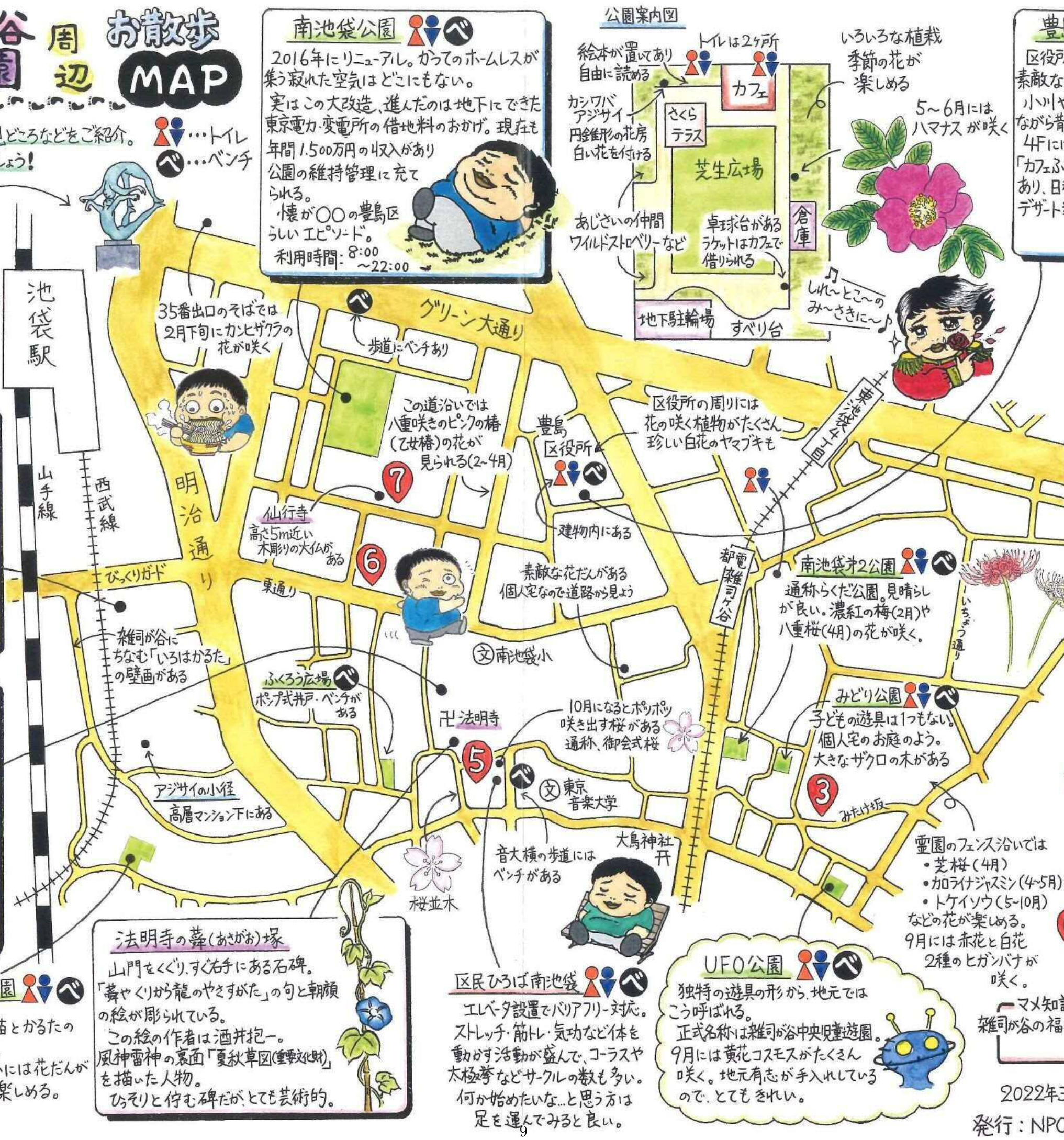
このエリアでは4つ参拝できる。あと3つは雑司ヶ谷MAPでご紹介。

3 毘沙門天(清立院) 5 弁財天(観静院)

6 布袋尊(中野ビル) 7 華の福祿寿(仙行寺)

マメ知識 雑司ヶ谷の福祿寿は、よく見る頭の長い老人の姿でない。

2022年3月製作 発行: NPO法人いきがい安心ジョイフル結(株)の会



法明寺の葬(おが)塚

山門をくぐり、すぐ右手にある石碑。「葬(おが)りから龍のやさすがた」の句と朝顔の絵が彫られている。この絵の作者は酒井抱一。風神雷神の裏面「夏秋草図(複製)」を描いた人物。ひそりと佇む碑だがとても芸術的。

区民ひろば南池袋

エレベーター設置でバリアフリー対応。ストレッチ・筋トレ・気功など体を動かす活動が盛んで、コーラスや太極拳などサクルの数も多い。何か始めたいな...と思う方は足を運んでみると良い。

UFO公園

独特の遊具の形から、地元ではこう呼ばれる。正式名称は雑司ヶ谷中央児童遊園。9月には黄花コスモスがたくさん咲く。地元有志が手入れしているので、とてもきれい。

霊園のフェンス沿いでは
・芝桜(4月)
・カラネジスミン(4-5月)
・トケイソウ(5-10月)
などの花が楽しめる。9月には赤花と白花2種のヒガンバナが咲く。

南池袋2公園
通称らくだ公園。見晴しが良い。濃紅の梅(2月)や八重桜(4月)の花が咲く。

みどり公園
子どもの遊具は1つもない。個人宅のお庭のよう。大きなザクロの木がある

10月になるとホトトギス咲き出す桜がある
通称、御会式桜

区役所の周りには花の咲く植物がたくさん
珍しい白花のヤマブキも

素敵な花だんがある
個人宅なので道路から見よう

この道沿いでは八重咲きのピンクの椿(乙女椿)の花が見られる(2-4月)

35番出口のそばでは2月下旬にカンザクラの花が咲く

仙行寺
高さ5m近い木彫りの大仏がある

雑司ヶ谷にちなむ「いろはかるた」の壁画がある

ふくろう広場
ポップな井戸、ベンチがある

アジサイの小径
高層マンションFにある

音大横の歩道にはベンチがある

大鳥神社 開

桜並木

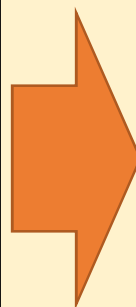
令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 豊島区医師会地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和3年度 実績報告】

- 認知症への取り組み
 - ・認知症初期集中チーム4件、もの忘れ相談6件実施。
 - ・認知症推進員との連携により認知症ボランティアのモデルケースを実施。
 - ・正しい理解を深める為、区民向けに認知症支援講座を開催。認知症サポーター養成講座を新任民生委員向けに開催。
- フレイル予防の普及啓発や通いの場の提供
 - ・コロナウィルス感染予防に留意しながら西池サロン12回、としまる体操8回実施。
 - ・ウォークラリーを開催し、フレイル予防に繋がった。マップ配布170枚、アンケート協力者37名。
- 医療機関との連携：退院カンファレンスの効率化
 - ・在宅相談窓口と連携しながら退院連携シートを作成した。



【令和4年度 事業計画】

- 認知症への取り組みと多職種との連携強化
認知症に関する相談は年々増加しており、本人の状況を的確に把握することで早期発見や認知症の悪化予防を図っていく必要がある。また、医療受診や介護だけでなく経済的な問題等の多問題を抱えているケースが増えており、多職種と連携を強化して支援を行っていく。
- フレイル予防や活動の場の提供
住民主体の活動の場のサポートを行うことや、今年度も引き続きウォークラリーを開催することで活動の場を提供しフレイル予防に繋げていく。
- 医療機関との連携強化
昨年度作成した退院連携シートを医療職部会を通じて区内8包括で共有し、有効的な活用方法を検討していく。

【令和3年度 実績の中で特に力を入れた活動】

コロナ禍の状況で外出の機会が減っており、活動するきっかけが欲しいとの住民の声を地域課題と捉え、職員が実際に地域を歩いてウォークラリー用のマップを作成し、区民ひろばに置かせてもらってマップを配布。開催期間は1ヶ月で、参加者のアンケート結果では、「散歩のきっかけになった」等の意見が多数あり、フレイル予防に繋げることが出来た。また、地域のお店や介護施設にも協力を依頼することで関係性も構築でき、地域資源の発掘にも繋がった。

令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 豊島区医師会地域包括支援センター 】

課題に対する目標

【令和3年度 実績報告】

- ・コロナウィルス感染拡大の影響で、予定していた地域ケア会議を中止せざるを得なくなり、開催することが出来なかった。代替案として出席予定者にアンケートを送付し、結果をまとめることで地域課題の把握に努め、資料を作成してフィードバックを行った。
- ・介護予防・日常生活支援総合事業の推進の為、基本チェックリストの実施や短期集中型サービスの提案に努めたが、圏域に社会資源が乏しい等の状況もあり、件数の増加に繋がらなかった。



【令和4年度 事業計画】

- ・地域ケア会議を「防災」をテーマに2回開催予定。
- ・基本チェックリストを積極的に実施し、介護予防・日常生活支援総合事業の利用促進を図っていく。

【目標を下回った背景/原因等】

- ・コロナウィルス感染拡大の時期が予定していた地域ケア会議開催日程と重なり、2回開催を予定していたが中止となり開催できなかった。令和4年度は2回の開催を予定している。
- ・総合事業の社会資源が圏域に少なく繋げることが難しかった。令和4年度は圏域に社会資源が出来たことに加え、介護予防の視点で積極的に適切なサービスを情報提供して利用促進に繋げていくという意識を職員全員が持つことにより、利用件数の増加を目指していく。

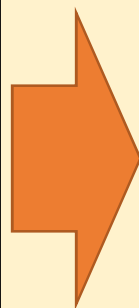
令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 いけよんの郷地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和3年度 事業報告】

- ・見守り支援事業担当による活動ー包括的な見守り
経験値に頼りがちな見守り支援判断基準を明確に数値化しフローチャート作成。業務の見える化・標準化を達成。
- ・高齢者の社会参加と住民主体の通いの場の拡大
地域の介護予防リーダー・サポーターの活動を、情報交換会の開催企画でサポート。会での意見が発端となり、2か所の空家活用による通いの場立ち上げに至った（いずれも令和4年度前半に活動開始）。
- ・高齢者総合相談センターの相談支援の充実
都営アパート、民生委員班活動、町会活動との関わりを深め、地域住民の困りごとに多様な角度からアプローチをおこなった。



【令和4年度 事業計画】

- ・見守り支援事業担当による活動・専門的な見守り
所内での情報共有・事例検討を進め、連携した積極的な訪問等によるケースの困難化予防。
- ・生活不活発高齢者の発掘と総合事業の活用
区基本チェックリストの積極的实施、としまりハビリ通所サービス・短期集中通所型サービスの活用。
介護予防リーダー・サポーターとの情報交換を重ね住民主体サロン立ち上げを支援。
- ・ウィズコロナ・アフターコロナに向けた体制の強化
既存の地域機関との関係継続に加え、コロナがきっかけで関わりが希薄となった機関に対し、オンラインツールなどを生かしながらアプローチしていく。

【令和3年度 実績の中で特に力を入れた活動】

- ・短期通所型サービス（モデル事業）実施事業所が圏域内にある事から、アウトリーチ対象者や相談者への周知をおこない、定員人数の利用に繋がった。また終了後に「歩こう会」を企画し、利用者の卒業後の活動サポートをおこなった。
- ・事務局を担っているいけよんプロジェクト（多職種連携会議）では、体操イベント（11月）や勉強会（9月・3月）を開催した他、池袋中学校3年生に特別授業を実施。体操イベントでは、区民ひろば、介護事業所などをオンラインで繋ぎ、利用者や住民、大勢でとしまる体操をおこなった。

令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 いけよんの郷地域包括支援センター 】

課題に対する目標

【令和3年度 実績報告】

- ・ 認知症に関する相談に対する早期対応
区民講座と認知症サポーター養成講座を組み合わせ、2回開催。
認知症に関して地域住民の認識を深めた。
一方、認知症に関する区の事業の活用が進まなかった。
- ・ 介護予防活動支援、介護予防マネジメントの推進
中央包括と合同の自立支援地域ケア会議をハイブリッド開催。
区主催自立支援地域ケア会議では2事例提供する事が出来たが、単独開催についてはコロナ感染拡大時期と重なりオンライン準備が進まず開催できなかった。
- ・ 地域ケア会議の実施
地域ケア会議を1月に開催予定であったが、コロナ感染拡大と重なり、書面開催に変更。



【令和4年度 事業計画】

- ・ 認知症に関する相談への素早い対応力強化
物忘れ相談・初期集中支援事業・専門相談・こころの相談等事業を、意識して計画的に活用。
- ・ ケアマネジメントにおける「卒業」「少し前の自分に」の視点の普及啓発
としまりハビリ通所サービス等を活用したプランの周知。
CM 地区懇談会による情報の共有。
- ・ 認知症についての普及啓発
区民講座・認知症サポーター養成講座を組み合わせ開催。開催方法・周知を工夫。
- ・ 課題を持ち孤立した高齢者の顕在化
コロナ禍にあって活動休止中の町会・民生活動等の情報集約、地域ごとのネットワーク再構築を検討。

【目標を下回った背景/原因等】

- ・ 予定していた地域ケア会議などの開催時期とコロナ感染拡大の時期が重なった事もあり、対面での開催を見送った。
オンライン開催を検討するも、アカウント取得の問題、特に地域住民出席者へのオンライン指導が進まない事もあり、中止、および書面開催に変更となった。
- ・ 認知症に関する区の事業の活用については、医療にかかわる相談を直接医療機関にかけるなど、包括対応のみで進める事が多かった。
それにより、相談対応の柔軟性、幅広さに課題を残した。

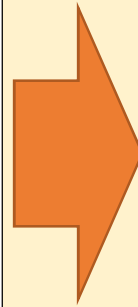
令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 アトリエ村地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和3年度 実績報告】

- ・ 圏域版認知症ケアパスを含むマップ(ご長寿マップ)を「認知症カフェとことこ」の参加者の協力を得て8月末に完成。またケアパス作成過程で誕生したすずめのキャラクターの名前を募集。
- ・ ケアマネ懇談会では「家族との関わり」、ケアマネ全体研修では「CM業務」について協議し、業務が多岐に渡り疲弊しているCMの課題がわかってきた。
- ・ CSW との協同によりサロンの立ち上げはできなかったがつながるサロンの立ち上げ支援を行い4月より1か所開始。



【令和4年度 事業計画】

- ・ 昨年度作成した「ご長寿マップ」を関係機関に配布する。
- ・ ケアパスの作成過程で誕生したキャラクターの命名し、包括のPRに活用していく。
- ・ 昨年度、抽出したケアマネジメント業務の課題について、ケアマネ懇談会で共有ならびに課題解決に向けた協議をしていく。
- ・ 新たな「つながるサロン」の立ち上げを支援していく。サロンを支えていく人材を確保していくため、地域で活躍している様々なサポーターとの交流会を開催していく。

【令和3年度 実績の中で特に力を入れた活動】

- ・ 認知症カフェとことこに集う参加者の人たちと「ご長寿マップ」を作成。主に参加者の人たちには、イラストを担当してもらい、そこで誕生したすずめのキャラクター名の募集も行い、本年5月に「とこりん」と命名される。(添付資料参照)
- ・ 感染予防のためオンラインを活用し、ケアマネ懇談会や多職種のを実施。オンライン環境の整っていない居宅CMに機器の貸し出しも行った。

令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画

【 アトリエ村地域包括支援センター 】

課題に対する目標

【令和3年度 実績報告】

- ・ 地区懇談会は、「コロナ禍で感じた地域交流の大切さ」をテーマに準備していたが、開催直前で感染状況が悪化、急遽書面開催へと変更を余儀なくされた。
- ・ コロナの情勢により、今年度もステッカー委員会の活動は行えなかったが、協力店舗からは日頃より心配な高齢者の相談をいただいている。



【令和4年度 事業計画】

- ・ 一昨年、昨年と地区懇談会は開催できなかったが、この間に、多くの意見を集約でき、それをまとめ今年度は年2回開催していく。
- ・ ここ2年間、活動休止中のステッカー委員会の再開に向け、体制や活動の見直しを行い、これからも地域での緩やかな見守りが継続できるように関係機関に協力を呼びかけていく。手始めにシニア応援キャラクター「とこりん」をベースとしたステッカのリニューアルを行っていく。

【目標を下回った背景/原因等】

昨年同様にコロナの感染状況により、計画していた事業が中止となってしまった。

名前決定！

とこといん

長崎・南長崎シニア応援キャラクター♪



たくさん投票いただきありがとうございました！
ご長寿マップ配布中です。お散歩にご活用ください。
アトリエ村高齢者総合相談センター&とことこカフェ

令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画 【 西部地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和3年度 実績報告】

・地域ケア会議の実施

「ごみ出しが困難な高齢者への支援」をテーマに地区懇談会を開催し、高齢者だけでなく、外国籍の住民や障害者等でも同様の問題が生じていること、また一方、町会にて対応出来ている地域もあることが分かった。これらの内容については、地域ケア会議全体会検討会へ繋げることが出来た。

・認知症の普及啓発

地域住民に向け、「認知症支援講座」や「認知症サポーター養成講座」を開催した。区民ひろばから認知症状のある利用者への対応についての相談を受け、ひろば利用者や職員に向けて「認知症サポーター養成講座」を実施したことで、来所者への見守りポイントや地域包括支援センターへのつなぎ方など具体的な対応方法を一緒に学んだ。



【令和4年度 事業計画】

・支え合いの仕組みづくり

地区懇談会のテーマを「ごみ出しが困難な高齢者への支援Ⅱ」とした。対応出来ている地域への聞き取りやモデルケース等を選定し、対応方法を検討する。

・認知症の普及啓発活動

地域の自主活動グループや町会等の地域住民へ向けて、「認知症サポーター養成講座」や認知症高齢者への関り方を学ぶ勉強会等を開催する。認知症の理解者を増やすために、継続的に地域住民へ向けて働きかけを行っていく。

【令和3年度 実績の中で特に力を入れた活動】

地区懇談会に先立ち、地域 CM や民生委員等へアンケート実施（51件）。さらに清掃事務所へ「出前ごみ」等について聞き取りを行い、結果を地区懇談会にて報告した。

・困っていること

〈本人〉回収時間が早い、重くて持てない、足腰が弱い

・工夫していること

〈町会〉集積場の掃除、ミニカーで回収、カラス対策

「ゴミ出しに関する困りごと」アンケートより一部抜粋



令和3年度 実績報告 及び 令和4年度 事業計画 【 西部地域包括支援センター 】

課題に対する目標

【令和3年度 実績報告】

○認知症介護者や支援者への支援

認知症に関する相談を受けた際に「認知症介護者の会」のチラシなどを活用した。案内した方へは「認知症介護者の会」に参加されるよう継続的に促したが、実際の参加には至らなかった。必要と思われる人の利用につながっておらず、「認知症介護者の会」の参加者が増えない現状がある。

○日常生活支援総合事業の周知と利用促進

- ・サービス利用開始時より「卒業」を意識した関わりを持つことで状態改善が期待できるケースがあった。
- ・窓口相談や介護予防サロンなどで基本チェックリストを実施した方々へモデル事業、短期集中サービス、区民ひろばなどの社会資源へ繋げた。



【令和4年度 事業計画】

○認知症介護者や支援者への支援

- ・「認知症介護者の会」について、窓口相談の際に周知する他、介護者や地域 CM に対して広報する。
- ・「認知症介護者の会」への紹介リストを作成し、後追いができるように工夫する。また介護者が継続的に参加できるように、参加しやすい時間帯や内容などの要望を聞き、検討する。

○高齢者の社会参加と住民主体の通いの場の拡大

- ・「ちょっと前の自分を取り戻す」ことを目標に「事業対象者」や「要支援者」に向けて「介護予防」の視点を持ち、区独自基準型サービスや短期集中型サービスの利用を進める。
- ・「高齢者の生活支援推進員」と連携し、通いの場となるような講座を企画する。

【目標を下回った背景/原因等】

- ・「認知症介護者の会」について継続した参加に至っていない。また参加者が増えず、必要と思われる人の利用に繋がっていない。
- ・既存の社会資源との連携がうまく出来ておらず、またサービス卒業後に繋げる社会資源が不足している。